三年以内を目途に町制施行を
総合体育館の建設や全村公共下水道整備に全力
――新年・村長インタビュー――

村民の皆様、明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いします。
また、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。
ところで、新年号の特集として浅見村長に村政に関して、次の項目についてインタビューをしました。

新年の抱負

総合計画にも掲げている総合体育館の建設工事を、平成五年度に着工し、平成六年度までの二か年事業として行っている。

面積的には、四千八百平方米でギャラリーやランニングコースも予定している。

また、将来的な生涯学習施設コンビナート構想としてカルチャーセンター的な公民館、プールなどの建設も予定しており生涯教育の館作りも充実させていきたい。

町制施行について

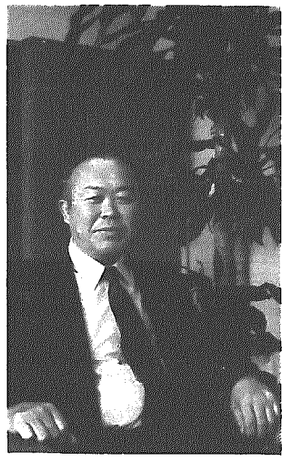
町制施行については、三年以内を目途に考えている。

「新潟県住宅供給公社第二団地」や「横越西土地区画整理組合」の宅地分譲も終わり、住宅も建設中で、現在の人口は、九千八百人（平成五年十一月末）を超えて増加中だ。

町制施行するためには、五つの条件があるが、人口的要件もその一つで一万人に到達すれば、その要件を満たすことになる。

ところで、町制施行にむけて整備すべき課題もある。

医療体制は、充実しつつあるが、防災対策面で常備消防体制が一つの課題である。


町制施行実現のため精一杯努力すると語る浅見村長

これについては、現在、広域消防体制を検討中で、亀田町に理解と協力をお願いしている。

また、国道四十九号の歩道整備とあわせて村のメインストリートづくりも町制施行に向けた条件整備の一つで、かねよし商店前から阿賀用水路までの区間に松や椿・ツツジなどを植栽して第一期工事も完了しつつある。

これからも更に市街化区域の整備をすすめると同時に諸条件整備を行いながら町制施行を実現していきたい。

国際交流について

平成五年度から中央公民館で国際交流の関連事業をはじめた。

昨年は、「英語劇」「国際交流パーティ」「インターナショナルフードフェスティバル」を開催し、県内の在住の外国人との国際交流を深めた。

また、本年一月には、国際セミナーを予定している。

ところで、国内外を研修する場合の助成制度として人材育成研修制度をつくり積極的な活用を呼びかけている。

そんな中で、昨年十月、連合PTAの役員が、この助成制度を利用してイギリス・フランスの小・中学校などを訪問し、国際理解を深め一定の成果をあげたことは喜ばしい限りだ。

今後とも国際理解を深める諸事業を推進していくので村民の皆様の理解と協力をお願いしたい。

今後の財政見通しについて

バブル経済の崩壊に伴い地方自治体の財政事情も非常に厳しい。

しかし、総合計画に基づいて、村民の皆様のご理解とご協力を得て、着実に実行していきたい。

また、全村公共下水道整備を目指し、住環境の整備にも力を入れていきたい。

現在建設中の総合体育館

横越村公募展作品募集

。公募作品　絵画・書道・写真・工芸（版画・彫刻・手芸は除く）
。主催　横越村教育委員会
。会期　平成六年三月十九日(土)～同二十七日(日)
。会場　横越村中央公民館
。出品規定
(一)応募資格　横越村在住者または、村内に勤務する者（但し、高校生は除く）
(二)作品　各部門とも三点以内とし未発表のもの。
(三)出品料　各部門とも三点まで千円。
(四)出品規格
(a)絵画　・日本画（絵本、絹本とも枠張り表装「30号以内」）
・洋画（油絵、水彩、パステル、その他額縁付き。「30号以内」）
(b)書道　半折以上。枠張表装として釈文添付のこと。
・たてもの180×90センチ内
・よこもの165×90センチ内
(c)写真　パネル張り、または額縁付き。四つ切以上半切まで。
(五)出品申込み　平成六年三月四日(金)十七時まで。
(六)作品搬入　平成六年三月十三日(日)九時～十七時
(七)作品搬出　平成六年三月二十七日(日)十五～十七時
(八)褒賞式　平成六年三月二十七日(日)十五時～
問い合わせ先　横越村中央公民館（電話三八五―二〇四三）

「私の心に残る先生のことば集」発行
女性教養セミナー

村中央公民館女性教養セミナーではリサイクルバザーの収益金をもとに「私の心に残る先生のことば集」を発行します。

これは、横越村の子供達を健やかに育むために、皆さんのそれぞれの心に残る先生のことばを文集という形で編集発行するものです。

なお、原稿締切は、平成六年二月末日で発行は、平成六年五月末日の予定。

［スタッフ募集中］
・ワープロ・編集・校正
・イラストなど。

問い合わせは、村中央公民館（電話三八五―二〇四三）まで

第四回国際セミナーを開催
横越村中央公民館主催

。とき
平成六年一月二十一日(金)
午後七時～八時三十分
。ところ
横越村中央公民館　講堂
。講師
ナイジェール・トレール氏　オーストラリア州政府マーケティングマネージャー（東京在住）
。演題「今、国際交流に求められること」～貿易自由化の波の中で～仮題
問い合わせ先　横越村中央公民館（電話三八五―二〇四三）

税金で　やさしい顔がまた一つ　もっとふやそう幸せを（横越・高橋いづみ）

ことしは戌年

いろはガルタの一枚目は、ご存じ「犬も歩けば棒にあたる」これは、「物事をなそうとする者は、それだけ災難に遭うことも多い」という意味とも「やっているうちには思いがけない幸運に合うこともある」という意味だともいわれています。

今年は戌（イヌ）年。どちらの解釈をとるにしても慎重な計画のもとに積極的な努力を惜しまず、開運間違いなしといきたいものです。

犬といえば、知恵。勇気。誠実の代名詞のような動物。

「桃太郎」や「花咲爺」に登場するのもそういう犬たちです。

犬は、今でも人間に大切な〝努力者〟でいろいろなところで優れた能力を発揮しています。

ところで、妊産婦の帯祝に「戌の日」が選ばれるように犬は安産・多産の象徴になっています。

では、イヌ年生まれの人が村でどれ位いるかといいますと七百十一人で、総人口（九千七百六十八人、平成五年十月一日現在）の占める割合は、七・三％です。

犬の特徴にあやかって、ことしもすばらしい年にしたいものです。

年男年女の抱負（順不同）

川根谷内
田中千香子
昭和57年生

「新年の目標」

わたしは、新年の目標は、大きく見ると二つあります。

一つ目は、字をきれいに書くことです。最初の方はいしきして、きれいな字を書こうと思っているけど、少したつとめんどうくさくなって、だんだんきたない字になってしまうので、めんどうくさがらないで、きれいな字で書きたいと思います。

二つ目は、なんでも最後までやり通すと言うことです。あきたりつかれたりするとすぐいやになってやめてしまうことが多いのでなくなるよう努力したいです。

小杉下
鈴木　雅俊
昭和57年生

「体力作り」

六年生になってからのめあては、二つあります。

まず一つ目は、マラソンです。四年生までは、一位だったけど、今年は二位だったから、毎日マラソンをするようにしたいです。

二つ目は、バスケットです。

六年生になったらバスケットクラブにはいってバスケットをいっぱいやってうまくなって体をきたえたいです。

藤　山
串田とよ子
昭和33年生

「ゆとりを生かして」

今年はイヌ年。私も三十六才である。三人の子供に恵まれ、皆、健康で丈夫に育ってくれた。今年は末娘も年長組。子育ての忙しさが少しづつ解消してきている。その分、生活に少しゆとりが出てきた。

そこで、このゆとりの時間を充実させていきたいと思う。現在やっているバレーボールの他に、我が子達とキャンプやサイクリング、スポーツ、料理、そうじ…様々な活動ができればと思う。

家族全員の健康を願いながら。

小杉上
今井　源吾
昭和９年生

「実現したい夢」

いつものことながら、新年を迎えると過ぎ去った事ばかり想い出すが、今年は六十才を迎えて、これからの夢を描いてみた。

世界一周の船による旅行をノンビリとしたい。そして世界中の切手を自分で買って集めてみたい。

何年後になるのかわからないが、足腰がまだまだ元気な時にやってみたいね。帰ってきて孫達にみやげになる話をいっぱい持ち帰り何日もかかって聞かせたい。実現出来ないのが夢だと言うが、是非実現したい夢である。

横越中
本間　富代
大正11年生

「健康と夢と欲望」

今年六回目の戌年に当り「抱負」を問われても、益々健康でありたい一念のみで、むしろ反省の多い昨今です。

小学校の頃、恩師が宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ…」を教訓とされていたことを思い出し、人生八十年の長寿社会の今日ですが、すでに九割の年月を送り後一割の短い余生を賢治の詩を信条として人の世話はできなくても世話にならぬよう、為になることはなくても邪魔にならないよう、静かに目を閉じることを夢に、できることなら次の戌年を健康で迎えたい附録の欲望は無理でしょうか。

木津中
小野塚忠義
明治43年生

「小阿賀の堤防に遊歩道を」

大竹商店脇の坂を登った辺りから小阿賀橋迄の堤防は今は荒れ放題ですが、これを遊歩道として整備して頂きたいのが私の願いです。

この堤防上からの眺望は東方県境の山々と小阿賀の清い流れが美しく調和し、山紫水明、木津の宝です。堤防の側面は傾斜が緩く牛馬が草を食べ、水辺は子供達の遊び場でした。

私の願いが叶えればここは老人の健康増進対策の〝歩け〟〝歩け〟の絶好の場となります。

関係者の皆様よろしく。

木津下
石井　太市
昭和９年生

「私の夢」

私の夢は、企業経営者として企業の存続成長です。これは、企業は『公器』という言葉があるとおり、顧客あっての企業、また、従業員あっての企業です。その企業を存続成長させることで、顧客の満足を満たしつつ、従業員の家庭を安定し、結果として、地域社会に貢献できるものと還暦に際しまして、改めて認識しております。しかし、健康が第一条件ですので、健康管理に十分気をつけながら、その夢の実現を目指し続けていきたいと思います。

沢海下
小林　恭子
昭和21年生

「夢は奉仕活動」

私は、農家の嫁です。連合婦人会主催で村松の老人ホームへ慰問に行きました。一時間程のレクレーションでしたが喜んで手をたたいてうれしくって踊り出す人もいました。高齢化社会の進む中で私達世代もこの生活を目前にして自分の姿なんだと少しさみしい気持ちでしたが、お年寄りと心を一つにできたことは忘れる事が出きません。私も二度人生があるなら、こういう所でお世話したいです。